

最も近い希望

倉石 清志

Opus Majus

この作品は、修道士ウィルフリッドが《常若の国》を目指すも、志半ばにして病死する、ただそれだけの物語である。

1349年の晩夏。疫病が猖獗を極めるヒベルニア。理想への逃避行。辛苦を忘却するための耽溺から、真理の愛求に動機を変えて、観念に潜思する若き修道士。

悪の離隔を経て、知識の鍵を獲得し、感謝、承認、喜びを携え、愛の懐へ。終極における神秘の交わりによって開示されたものとは？